

☆☆図書室だより☆☆ ☆第21号☆

☆☆ー 図書委員会よりお知らせ ー☆☆

2015年 7月(後期)～2015年11月(前期) 新規登録の書籍をご案内します



書名 (購入書)	著者名など		
詩編を祈る	W・ブルッゲマン 著 吉村和雄 訳	日本キリスト教団出版局	[橙 193.33 Br]
エッセイの木 クリスマスまでの24のお話	ジェラルディン・マコックラン 著 沢 知恵 訳 池谷陽子 絵	日本キリスト教団出版局	[橙 193 McC]
イザヤ書(11:1)預言「エッセイの株から...」をあらわしたモノが中世に多く製作されたことを感じさせる、アドベントに大人も学べる子ども向けのかわいらしい本です。キリスト教書店本屋大賞(2015年度)受賞。			
クリスマスってなあに?	ジョン・G・ロビンソン 文・絵 こみやゆう 訳	岩波書店	[黒 726.6 Ro]
アンナの赤いオーバー	ハリエット・ジーフェルト ぶん アニタ・ローベル え 松川真弓 やく	評論社の児童図書館・絵本の部屋	[黒 726.6 Zi]
キリスト教名画の楽しみ方 受胎告知	高久眞一 著	日本基督教団出版局	[茶 196.7 Ta]
キリスト教名画の楽しみ方 降誕	高久眞一 著	日本基督教団出版局	[茶 196.7 Ta]
六千人の命のピザ	杉原幸子 著	大正出版	[黒 916 Su]
書名 (ご寄贈書)	著者名など		
アドヴェント・カレンダー 24日間の不思議な旅	ヨースタイン・ゴルドル 著 池田香代子 訳	日本放送出版協会	[橙 193 Go]
クリスマスに向かって時空を超えていくお話は、上記の『エッセイの木』に通じるものがあります。			
ハートフル・クリスマス・ストーリー	とっておきのクリスマス 小さな10の奇跡 ガイドポスト 編 ホーバード・豊子 訳	いのちのこば社 フォレストブックス	[茶 196.3 Ga]
クリスマスに贈る 100の言葉	アルフレート・ハルト編 里野泰昭 訳	女子パウロ会	[茶 193.3 Ha]

ご紹介本 ...

中野 実 先生 より



『詩編を祈る』

W・ブルッゲマン 著 吉村和雄 訳 日本キリスト教団出版局 2015年

以前から、詩編の祈りを私たち自身の祈りとする事の大切さについて考えてきた。そんな問題意識にぴったりの本が出た。著者ブルッゲマンは現在世界的に活躍する有名な旧約学者である。本書の内容は、分かり易くはない。しかし、じっくり内容を噛み締めながら読み進むと、私たちの信仰の在り方に挑戦してくる貴重な言葉を発見するであろう。例えば、「神に向かって嘆き、訴え、抗議するという対話の勇氣こそが、詩編の伝統において決定的に重要なものである」(17頁)。「彼らが信仰的であるのは、〔人生において経験する〕この混沌状態を、聖なる方に向かって真正面からはっきりと言葉で語ろうとしているという、その意味においてだけです」(39頁)。「そこには、神の御前にあるからイスラエルはお行儀よくしなければならぬ、という考えはありません」(112頁)。また詩編の中で私たちを悩ませる、復讐に関する記述について興味深い論考を展開している。例えば、「好むと好まざるとにかかわらず、私たちは復讐したがる生き物です。だから、これらの不快な響きを伴う詩編が、私たち自身のものとして抱き止められねばならないのです。私たちの激しい怒りや憤りが、そっくりそのまま、自分のものと認められ、すべてが言葉にされなければなりません。そしてその時に(その時のみ)私たちの激しい怒りや憤りが、神の恵みに服従するものとなり得るのです」(155-56頁)。ぜひ読んでみてください。



『クリスマスってなあに？』

ジョン・G・ロビンソン 文・絵 こみやゆう 訳 岩波書店 2012年

聖書に書かれている生誕物語に始まって、クリスマスの準備、クリスマスのお料理にクリスマスの飾り...この一冊でクリスマスの全てがわかる絵本です。1946年に出版されたイギリスの絵本ですが、絵もととても可愛らしく、丁寧にクリスマスのことが描かれています。クリスマスはただのケーキを食べて、賑やかに騒ぐお祭りだと思っているノン・クリスチャンの方へのプレゼントにも最適です。(K. Jimbo)

『六千人の命のビザ』



杉原幸子 著 大正出版 2014年

1940年のリトアニアでの出来事を忘れてはなりません。一人の日本人外交官、杉原千敏がビザの発給を行い、約六千人ものユダヤ人の命を救ったのです。

すでにナチス・ドイツと日独防共協定を結んでいた手前、外務省はビザ発給を許しませんでした。しかし杉原は、独断でビザの発給を行い、リトアニアを脱出する汽車の窓から身を乗り出してまで許可証を描き続けたそうです。

「私を頼ってくる人々を見捨てるわけにはいかない。でなければ私は神に背く」「神に背くのは、ひいては人道にもとるということであり、《神は愛であり、愛は神である》と聖書にあります。」杉原千敏と、この本の著者であり妻の幸子さんの言葉です。

今、ヨーロッパと日本が置かれている状況がどうしてもこの本と重なります。まずは、過去の歴史を学び、現代の糧となりますように。多くの方にお奨めいたします。(M.I)

『アンナの赤いオーバー』



ハリエット・ジューフェルト ぶん アニタ・ローベル え 松川真弓 やく 評論社 1990年

第二次世界大戦後の実話をもとにして作られた絵本です。物の乏しい中、お母さんは家にある金時計やランプを売って、娘アンナのオーバーを作ることにします。まずは羊を飼っているお百姓さんの所へ行って、羊の毛をわけてほしいとお願いするところから始まり、翌年の春に毛を刈り、糸に紡いでもらい、コケモモを集めてきて自分たちで色染めをし、布地に織ってもらって、冬になって新しいオーバーができるまでを丁寧に描いています。アンナは新しいオーバーが出来たことが嬉しくて、その年のクリスマスイブのお祝いにオーバー作りに関わった人々を招待することにしました。慎ましい生活の中に喜びを見つけ、それを分かち合う姿に、クリスマスの原点を見る思いがします。(K. Jimbo)

『キリスト教名画の楽しみ方 受胎告知』 1998 『 // 降誕』 1999



高久真一 著 キリスト新聞社

『受胎告知』..それは最も美しい瞬間ではないでしょうか？きっと芸術家たちはマリアとその作品自体を(彼女の身分や状況の厳しさに関わらず)最高に美化しようとしたのだらうと思うのです。聖霊や天使、花や色などの象徴物を入れながら、画家が独自にそれらの原則を外しているのは面白いです。

『降誕』の方では三人の博士のキャラクターが絵によって様々なのは(誰が役をやるかが問題の) ページェントのようです。

解説文の絵解きにそって聖書にかえられるので、アドベントに鑑賞するのが良いと思います。どの作品もいつか、原画に出会うことが楽しみです。(Ri)